

心疾患 出張診療で発見

会津若松・竹田綜合病院

「人的資源生かしたい」

会津若松市の竹田綜合病院の心臓血管外科医と超音波技師が一組となつて出張診療し、医療環境が十分でない福島県会津地方の住民の健康を支えている。推進役の岡野龍威医師(50)は「心臓病は検査で病気が分かり、手術すれば劇的によくなる」と出張診療の意義を強調する。

(会津若松支局・高橋敦)



70代男性が通うかかりつけ医に出張し、心臓超音波検査をする竹田綜合病院の技師(左)
—喜多方市の佐原病院

竹田綜合病院によると、会津地方17市町村で心臓や

血管の高度な手術ができる医療機関は会津若松市の2施設だけで、専門の医師は少ないという。面積が千葉県とほぼ同じの会津地方で、専門の医師に診てもらうには距離の壁、冬場の交通環境の壁などがある。

出張診療は2021年11月に始めた。現在、2市2町の4病院へ月1回を基本に出向いている。技師が携帯用機器を持参し、患者を検査。すぐに検査結果を踏

まえて医師が診る。

ことし7月までの検査件数は計542件。出張診療・診察を踏まえ、受け入れ病院が竹田綜合病院へ患者を紹介したケースは96件に

上り、以前に比べかなり増えたという。病気は大動脈狭窄症21件、胸部大動脈瘤10件、心不全10件、閉塞性動脈硬化症6件、連合弁膜症3件、下肢浮腫3件など多岐にわたる。手術は14件実施された。

心臓超音波検査は情報量が多く、診断に大きな助けとなる。一方で検査や診断に専門性が不可欠なため、持っけても活用しきれない医療機関もあるという。患者にとっては、検査は痛くないし、被ばくもないので安心して受けやすい。

出張診療を経て3月に心臓の手術を受けた喜多方市の会社社長福島修一さん(72)は「自覚症状がなかったが、的確な診断と手術で

余命を伸ばしてもらった。前より体が楽になった。感謝しかない」と話す。

岡野医師は「医療で困っている都市圏以外の山間部などは、日本の貴重な文化が残る所でもある。出張診療は日本の文化を守る戦いでもあると思っている」と話す。

出張診療はさらに3町の6施設への派遣予定が具体化し、別の町の1施設でも検討が進む。心臓超音波検査を元々実施している2施設に心臓外科医が出向き、診察するという形の出張も実施している。

22年9月からは心臓リハビリテーション指導士も一員として派遣し、受け入れ病院の職員に適切なリハビリの指導や助言をする取り組みも続ける。

年2回、会津全体の医療機関を訪問して情報交換する間島一浩副院長(57)は「専門ではないのに患者を診なくてはいけないケースが各地である。検査部門の職員が充実している竹田綜合病院の人的資源を地域に生かしたい」と意気込む。

【修正あり】1段落目、岡野龍威医師(40)でした。